

平成 27 年度第 2 回流山市文化財審議会会議録

1 開催日時

平成 28 年 3 月 17 日(木)13 時 30 分～15 時 30 分

2 場 所

流山市立中央図書館会議室

3 議 題

- (1) 平成 27 年度流山市文化財保護事業実施状況について
 - ・有形文化財調査
 - ・埋蔵文化財発掘調査
- (2) 鱒ヶ崎三本松古墳の調査について
- (3) その他

4 出席委員

古谷会長、鎧副会長、小川委員、下津谷委員、
日塔委員、松浦委員、常木委員、牧野委員、西委員

5 欠席委員

武田委員

6 事務局員

直井生涯学習部長
阿部図書・博物館次長
増崎学芸係長、北澤主任学芸員

7 傍聴者

なし

平成 27 年第 2 回文化財審議会議事録

(阿部次長)

本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

本日、司会進行をさせていただきます、図書・博物館次長の阿部でございます。よろしく願いいたします。

開会に先立ちまして、事務局職員の紹介をいたします。

～職員紹介～

本日、館長小栗は急務の為、欠席させていただきます。以後私が事務局を代表させていただきます。

それでは、ただいまから、平成 27 年度第 2 回流山市文化財審議会を開会いたします。

会議開催に先立ちまして、お手元にお配りしました資料の確認をお願いします。まず、式次第、出席委員名簿、それと過日に郵送いたしました会議資料ご用意ください。

審議会会議録はホームページで公開義務付けられておりますので、会議録作成のためご発言の録音させていただきます。ご了承ください。ここで、教育委員会を代表いたしまして、直井部長から御挨拶させていただきます。

部長お願いします。

部長 挨拶

(阿部次長)

部長 ありがとうございます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

流山市文化財審議会会長から、御挨拶を頂戴します。古谷会長お願いいたします。

古谷会長挨拶

(阿部次長)

古谷会長ありがとうございました。

「流山市文化財の保護に関する条例」第7章第46条第1項の規程によりまして、会議の議長は会長に務めていただく事となっておりますので、ここからは会長に進行をお願いいたします。

(古谷会長)

議事進行に先立ち、事務局に出席委員数の報告を求めます。

(増崎係長)

本日の会議にきましては、委員10名のところ9名と過半数以上の出席をいただいておりますので、「流山市文化財の保護に関する条例」第46条第2項により、会議が成立している事を申し添えます。

(古谷会長)

会議成立ということですので、次第により議事を進行させていただきます。

議題(1)「平成27年度流山市文化財保護事業実施状況について」、事務局から説明願います。

(阿部次長)

事務局長の阿部です。

議題(1)「平成27年度流山市文化財保護事業実施状況について」ですが、文化財保護推進事業につきましては、増崎係長が、埋蔵文化財発掘調査関係事業につきましては、北澤主任学芸員が説明いたしますので、よろしく申し上げます。

(増崎係長)

学芸係長の増崎です。文化財保護推進事業について御説明いたします。

～文化財保護推進事業について説明～

- ・ 荒木家住宅（料亭「矢葉喜」）調査概要
- ・ 流山2丁目閻魔像調査概要

(古谷会長)

只今、事務局より説明のありました、議題(1)「平成27年度流山市文化財保護事業実施状況について」、の文化財保護推進事業について御意見のある方はいらっしゃいますか。

～質疑応答～

(小川委員)

屋根裏にあった金毘羅さまのお札は回収したのでしょうか。

(増崎係長)

柱に掛かっていた箱は、頑丈に打ちつけられており、辛うじて外すことができたが、大きく破損してしまい、復元ができなかった。写真での記録だけとなってしまった。

お札は、博物館資料として寄贈していただいている。

(小川委員)

こんなに大きな金毘羅さまのお札は珍しく貴重である。流山地域は、利根運河の関係から金毘羅さまの繋がりがある。銘を見ると明治13年と書いてあるので、恐らく四国の金比羅さま詣を行っていると思う。まだこちらでは勧請していない時期であるので。

お札については、束になっており、江戸期のものも含まれている可能性も考えられる。時期を見て実見させていただきたい。

(増崎係長)

了解しました。

(西委員)

職場体験学習について、希望した生徒は全部受け入れをしたのでしょうか。

(北澤主任学芸員)

毎年、年度当初に各学校から受け入れ希望の問い合わせが来ており。図書館・博物館では各学校に2日間3名までと回答をしている。その結果を受けて、各学校から申し込みの依頼が届き、実施してい

る。年度によって増減がある。

(西委員)

希望は全部受け入れられているのか。

(北澤主任学芸員)

体験先は学校で調整を行っており、聞いたところでは第1希望ではない場所であるということも聞いているが、学校で調整されて希望した生徒は全員受け入れている。

(古谷会長)

諏訪神社でも受け入れをしたことがある。
関心を持った生徒さんが来ていた。

(西委員)

これからも是非積極的に受け入れを行ってほしい。

(増崎係長)

小学生の体験は、体験というより職場見学的なイメージが強い。
可能な限り受け入れたい。

(日塔委員)

荒木家について、隣は登録文化財武村家住宅（丁字屋）でその隣がなくなってしまったのは残念である。
建物を見ると奥に延びており、中央の土間は元々中庭だったと思われる。典型的な町屋造りの建物である。

土間の中に生けすがあるなど壊されてしまい残念である。

このように奥まで延びた建物は少なく貴重であった。残っているものは少ないのではないか。

(小川委員)

ないです。

(常木委員)

市内では県財団や県教育委員会によって発掘調査が行っているが、P2の資料に記載されている94条の届出はこれに該当しているのか。

(北澤主任学芸員)

この資料の記載されている届出は、市の公共事業に伴うもので、県調査のものはカウントされていない。
県は企業庁・URの区画整理事業を担当しており、当該場所の届出は10年以上前に提出されている。
発掘の届出は市を経由している。

(増崎係長)

補足をすると、県からの事務委譲で市が受付事務を行っており、その件数は年間60数件をあまりである。そのほとんどがつくば関連のものである。

(古谷会長)

他に御意見のある方はいらっしゃいますか。
無いようですので、次の議題に移ります。

(阿部次長)

続きまして埋蔵文化財発掘調査関係事業については、北澤主任学芸員が説明いたします。

(北澤主任学芸員)

主任学芸員の北澤です。埋蔵文化財発掘調査関係事業について御説明いたします。

～埋蔵文化財発掘調査関係事業について説明～

(緒ヶ崎三本松古墳を除く)

(増崎係長)

受託報告事業で昭和53年に調査を実施した富士見台第Ⅱ遺跡の報告書が本年度末に刊行する報告を行う。

(古谷会長)

只今、事務局より説明のありました、議題(1)「平成27年度流山市文化財保護事業実施状況について」の埋蔵文化財発掘調査関係事業について御意見のある方はいらっしゃいますか。

～質疑応答～

(下津谷委員)

加村台遺跡では弥生時代の遺構は検出されたのか伺いたい。

(北澤主任学芸員)

今回の調査では、弥生時代の遺構は確認できなかった。主に古墳時代後期 6 世紀中頃から 9 世紀代にかけてのまとまった集落が確認されている。

昨年度調査を行った J 地点では古墳時代中期の集落が見つかったがやはり、弥生時代の遺構遺物は見つかっていない。これまでの調査成果から弥生時代の遺構は現在の博物館を周辺部分にしかみられないようである。

(増崎係長)

加村台遺跡は博物館から市役所南側までの大きな遺跡である。時代については周知の遺跡全体を表していることから、弥生時代を含んでいる。

(常木委員)

昭和 53 年の報告書が刊行されることはよかったと思う。しかしながら、古い調査でありながら報告書が刊行できていないなど、未報告ものも存在している。

昨年度三輪野山遺跡群の概要報告書が刊行されたが、本報告に向けたスケジュールは確定しているのでしょうか。

(増崎係長)

三輪野山遺跡群は、資料数が膨大であり、今回の概要報告で遺物量や図面類などの容量がどれくらいあるのかを確認できた段階である。これを基に刊行に向けたスケジュールを進めていく状況である。

(松浦委員)

三輪野山の保存処理を行っているがどんな遺物・どの時代のものを委託しているのか。

(北澤主任学芸員)

古墳・古代の鉄製品・鉄鏃などである。

(松浦委員)

雁又などのあるのか。

(北澤主任学芸員)

柄がともなった鍬などである。

出土量が多いので、保存状態が良いものの中で緊急性が高いものから順次保存処理をすすめているところである。

(松浦委員)

保存処理はこれからも進めていただきたい。

もう1点は、野々下金クソ遺跡について質問したい。遺跡名で金クソとついているが、製鉄関連の遺構は見つかっているのか。

(北澤主任学芸員)

今回の調査地点を含めて製鉄関連の遺構は見つかっていない。周辺には金クソの小字が残っており、恐らく製鉄関連の遺構があった可能性は考えられます。ただし、造成によって消滅してしまった可能性もあるかと思えます。

(古谷会長)

他に御意見のある方はいらっしゃいますか。

無いようですので、次の議題に移ります。

続きまして、議題(2)「鱈ヶ崎三本松古墳の調査について」を事務局より説明願います。

(阿部次長)

事務局長の阿部です。

議題(2)「鱈ヶ崎三本松古墳の調査について」の説明につきましては、担当である北澤主任学芸員が説明いたしますので、よろしくお願ひします。

(北澤主任学芸員)

主任学芸員の北澤です。本件のこれまでの調査成果と今後の予定について御説明します。

～鱈ヶ崎三本松古墳の調査説明～

資料に基づく補足説明

3月13日日曜日に第3回目の三本松古墳調査指導委員会を開催した中での確認、決定事項の報告をします。

(1) 墳丘の形状について

- ・ 前方部の周溝は中世・近世の遺構によって壊されて確認できない。
 - ・ 周溝と墳丘が離れており、検出状況から墳丘が中世段階で大きく削平を受けている可能性が高い。
 - ・ 墳頂部も大きく削平を受けている可能性が高い。
- (2) 主体部について
- ・ 横穴式石室の可能性は低い。
- (3) 埴輪について
- ・ 原位置での埴輪の出土はなさそうである。
 - ・ 特徴から6世紀後半でほぼよさそうである。
- (4) 今後の調査方法について
- ・ 墳丘の構築状況を確認するためにトレンチで掘り下げていく。

調査指導委員でもある下津谷委員から補足説明
(下津谷委員)

古墳の形状に関して

現状より、後円部がかなり大きくなる。

現状、前方部が非常に小さい点が気になる。前方後円墳よりも帆立貝形式の可能性も考えられる。帆立貝でも幅の広い可能性もある。

横穴式石室の可能性はない。木棺直葬の可能性も考えられる。

木棺直葬は墳頂部だけでない。野田で調査したものでは、基底部から掘り下げて埋葬施設を造っていた例もあるので、調査ではその点にも留意してほしい。

(古谷会長)

只今、事務局から説明のありました、議題(2)「鱈ヶ崎三本松古墳の調査について」について、御意見のある方はいらっしゃいますか。

～質疑応答～

(松浦委員)

墳頂付近では円筒埴輪が出土しているが、原位置を保っている可能性は考えられないのか。

(北澤主任学芸員)

後世の土坑内に捨てられたものと考えている。

図の小さなドットは埴輪の破片である。

(松浦委員)

埴頂部に埴輪列がめぐっていた可能性はないのか。

(下津谷委員)

調査報告では、原位置ではなさそうである。

後世の人々が埴輪を捨てていた感じである。

基底部でも見つかったらよかったのだが。

(常木委員)

裾周りの埴輪を埴頂部まで持っていくとは考えられない。

(下津谷委員)

埴輪列の穴は確認できるのか。

(北澤主任学芸員)

埴頂部・裾部とも確認されていない。

原位置であった可能性も踏まえて慎重に調査を進めたい。

(松浦委員)

埴頂部にドットが見られる点から、やはり元々、埴頂部にも埴輪列が巡っていたものと考え。出土状況等を整理していくなかで色々と検討して欲しい。

(増崎係長)

過去に調査した東深井古墳群では裾部に埴輪列が確認されている。その経験からみると三本松古墳では、明確な埴輪列と言えるものは見受けられなかった。

遺物が、埴輪と中世・近世・現代の遺物がほぼ同レベルで出土していることから、原位置を保っている可能性は低いと考える。

中世小金城跡との立地を考えると中近世段階で大きく改変されたと考える。思井鷹の見の塚をつなげると下花輪方面とのつながりも考えられる。

(北澤主任学芸員)

前ヶ崎城方面にも中継ぎとなる場所である。

(松浦委員)

指摘のとおりだと思う。

(増崎委員)

色々な指摘を踏まえて慎重に調査を進めていきたいと考えている。

(常木委員)

今後の整備に向けてのグランドデザインはあるのか。審議会等の関わりはあるのか伺いたい。

(増崎係長)

現在の調査成果によって大きく変わる可能性もある。調査成果を持って、今後の整備に取り込んでいければと考えている。

現状では、どのような形で整備するかプランはない。審議会等でも検討していきたいと考えている。

(小川委員)

碑文も含めて整備に取り組んでいてもらいたい。

(北澤主任学芸員)

前回の審議会以降に、石の硬度調査、裏面の保存処理を実施しております。碑面の強度調査の結果は、配布資料のとおりです。オリジナル面は、まったく問題ありませんが、剥落部分は強度が弱く、展示を考えた場合には修理が必要と思われます。

13日の調査指導委員会では、現地に戻す場合には、剥落を防ぐ処理を進めること、基部がない石碑にソケットをかまし、上部にも支えをあてがう方法があるとの提案を受けた。実例として東京国立博物館で展示している石幢がそのような工法で行われている。今後、現地に復元する場合の一つの方法として、調査していくことにしている。

また、レプリカの作成も視野に入れた、3D実測を来年度実施することになっている。

(松浦委員)

東京国立博物館で勤務していた時に実見している。石碑の形状を考えると下に重力がかかっている。おそらくその方法で可能と考え

るが、慎重に検討してください。

(北澤主任学芸員)

一つの方法として検討していきたい。

(古谷会長)

他に御意見のある方、いらっしゃいますか。

無いようですので議題(2)「鱒ヶ崎三本松古墳の調査について」は、今後とも調査指導委員会の指導を仰ぎながら慎重に調査を進め、本審議会に調査成果を逐次報告しながら、業務を進めてください。

(阿部次長)

事務局長の阿部です。了解しました。御指示のように業務を進めさせていただきます。

(古谷会長)

次の議題に移ります。議題(3)「その他」について、事務局から説明願います。

(阿部次長)

事務局長の阿部です。

事務局から、議題(3)「その他」について、樹木指定の経過について報告します。増崎係長お願いします。

(増崎係長)

樹木指定の経過について、先の審議会以後の経過をご報告します。

現在、指定候補として赤城神社の社叢・光明院のタラヨウ、円頓寺のケヤキの3点を考えており、地権者と交渉中である。

予定として平成28年度の上半期を目標としている。

その他は市の指定樹木との兼ね合いもあり、みどりの課と調整中である。

松ヶ丘の街路塔については、県を通じて国に打診済みである。文化庁調査官による調査待ちの状況である。

(古谷会長)

事務局の説明に対してご意見はありますか？

～質疑応答～」

(鎧副会長)

光明院のタラヨウは、以前より状態がよくなっていることを確認することができた。円頓寺は地権者との交渉待ちと伺ったが、状況を教えてほしい。

(増崎係長)

現在、地権者との交渉を進めている所である。

(古谷会長)

その他、委員の皆さんから御意見ありませんでしょうか。
無いようですので、よろしければ、これにて平成27年度第2回文化財審議会を終了といたします。

(阿部次長)

皆様、長時間の御審議お疲れ様でした。ありがとうございました。
以上をもちまして、平成27年度第2回文化財審議会を閉会させていただきます。